

1 高等学校学習指導要領の改訂に向けて（中央教育審議会答申より）

(1) 改善の基本方針

将来のスペシャリストの育成という観点から専門分野の基礎的・基本的な知識、技術及び技能を身に付けるための教育とともに、職業人としての規範意識や倫理観等を醸成し、豊かな人間性の涵養等にも配慮した教育を行うことが重要である。また、産業構造の変化等の情勢の変化に対応し、それぞれの専門分野で真に必要とされる教育内容を精選するとともに、新たに求められる教育内容・方法を取り入れることが重要である。

さらに、職業教育の充実のためには、小・中学校段階におけるキャリア教育や進路指導との接続、専門高校生に産業社会や大学等が求める能力・資質との関連、次代を担う人材の育成などの観点から、関係各界・各機関等との連携強化なども重要な視点である。このような基本的な考え方の下、科目の構成及び内容の改善を図る。

【専門教育の課題】

- 経済のグローバル化や国際競争の激化、規制緩和等に伴う産業構造の変化、技術革新・国際化・情報化等に伴う産業社会の高度化、就業形態の多様化などに見られる就業構造の変化等により、我が国の産業社会や企業の専門高校に対する期待や、専門高校の生徒に求める資質・能力は変化してきている。また、専門高校の生徒の意識の変化や進路の多様化が進んでいる中で、「大学全入時代」の到来等も相まって、これまで以上に明確な目的意識をもった進路選択が促進されるよう、適切な対応が求められている。

(2) 改善の具体的事項

ア 教科横断的な事項

- (ア) 将来のスペシャリストの育成に必要な専門性の基礎・基本を一層重視し、専門分野に関する基礎的・基本的な知識、技術及び技能の定着を図るとともに、体験的学習を通し実践力を育成する。

さらに、資格取得や各種検定への挑戦等、目標をもった意欲的な学習を通して、知識、技術及び技能の定着、実践力の深化を図るとともに、課題を探究し解決する力、自ら考え行動し、適応していく力、コミュニケーション能力、協調性、学ぶ意欲、働く意欲、チャレンジ精神などの積極性・創造性等を育成する。

- (イ) 将来の地域産業を担う人材の育成という観点から、地域産業や地域社会との連携・交流を通じた実践的教育等を充実させ、実践力、コミュニケーション能力、社会への適応能力等の育成を図るとともに、地域産業や地域社会への理解と貢献の意識を深めさせる。

- (ウ) 人間性豊かな職業人の育成という観点から、人と接し、自然やものとかかわり、命を守り育てるといった職業教育の特長を生かし、職業人として必要な人間性を養うとともに、生命・自然・ものを大切に作る心、規範意識、倫理観等を育成する。

- (エ) (ア)～(ウ)を踏まえた改善に当たり、産業構造の変化、技術の進捗等に柔軟に対応できる人材の育成のため、専門分野に関する基礎的・基本的な知識、技術等の定着を特に重視するとともに、就業体験や産業現場等における実習等、実社会や職業とのかかわりを通じて、高い職業意識・職業観と規範意識、コミュニケーション能力等に根ざした実践力を高めることを一層重視した教育活動を充実すべきである。

また、生徒の意識の変化や進路の多様化等に対応するため、弾力的な教育課程を編成することに加えて、より実践的な職業教育や就業体験等を通じて、職業選択能力や人生設計能力を身に付けさせる教育が可能となるよう配慮することも必要である。

イ 各教科・科目に関する事項

少子高齢社会の進展やライフスタイルの多様化、食育の推進などの社会の要請に対応し、衣食住、ヒューマンサービスなどにかかわる生活産業への消費者ニーズの的確な把握や必要なサービス提供等を行う企画力・マネジメント能力を身に付け、生活文化を伝承し創造する人材を育成する観点から、科目の新設を含めた再構成、内容の見直しなど次のような改善を図る。

(ア) 教科の目標については、衣食住、ヒューマンサービスなどにかかわる生活産業の各分野で職業人として必要とされる資質や能力とともに、生活文化の伝承と創造に寄与する能力と態度を育成することを明確にする。

(イ) 科目構成については、上記の改善の視点に立ち、現行の19科目を次の20科目とする。

生活産業基礎、課題研究、生活産業情報、消費生活、子どもの発達と保育、子ども文化、生活と福祉、リビングデザイン、服飾文化、ファッション造形基礎、ファッション造形、ファッションデザイン、服飾手芸、フードデザイン、食文化調理、栄養、食品、食品衛生、公衆衛生

(ウ) 以下のとおり、科目を再構成する。

- ・コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して生活産業の各分野で情報を適切に処理し、活用することを重視し、「家庭情報処理」の名称を変更し、「生活産業情報」とする。
- ・高齢者の健康と福祉、介護に関する知識と技術を習得し、高齢者の生活の質を高め、地域における高齢者の自立生活支援と介護の充実に資する人材育成を目指し、「家庭看護・福祉」の名称を変更し、「生活と福祉」とする。
- ・乳幼児期に加えて小学生までの発達の特徴や生活、保育に関する知識と技術を習得し、子どもの健全な発達を支える能力と地域の子育て支援にかかわる人材育成を目指し、「発達と保育」の名称を変更し、「子どもの発達と保育」とする。
- ・子どもの遊びや児童文化財などに関する知識や技術を広くとらえ、内容を再構成し、子どもとかかわる人材育成を目指して「児童文化」の名称を変更し、「子ども文化」とする。
- ・「被服製作」は、被服製作に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、デザインや着用目的に適した被服材料を選択して被服を製作する能力と実践的な態度を育てる「ファッション造形基礎」と、その知識と技術を応用発展させ、高度な縫製技術を習得するとともに創造的に製作する能力と態度を育て、ファッション産業やアパレル産業にかかわる人材育成を目指す「ファッション造形」の2科目に整理分類する。

2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

(1) 専門教科「家庭」における基礎科目としての「家庭情報処理」

「家庭情報処理」の目標は、「社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させるとともに、情報処理に関する知識と技術を習得させ、生活産業の各分野で情報及び情報手段を活用する能力と態度を育てる」ことである。

各学校においては、より身近な生活の課題と結び付け実践的・体験的に学習させ、身に付けた情報活用能力を実生活に主体的・実践的に活用する能力や態度の育成を目指した指導内容の改善・充実を図っていく必要がある。

(2) 「家庭情報処理」の学習指導の実際

コンピュータや情報通信ネットワークなどの基礎的・基本的な知識や技術の習得を図り、生活産業の各分野で情報を適切に処理し、円滑に活用できることを重視した「家庭情報処理」の年間指導計画の例を【表1】に示す。

【表1】専門科目「家庭情報処理」の年間指導計画の例

科目名		家庭情報処理						
科目の目標		社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させるとともに、情報処理に関する知識と技術を習得させ、生活産業の各分野で情報及び情報手段を活用する能力と態度を育てる。						
履歴学年		2学年	単位数	2単位				
配当時間		70時間	授業形態	一斉学習、グループ学習等				
評価の観点		【関心・意欲・態度】	【思考・判断】	【技能・表現】	【知識・理解】			
評価規準		・社会における情報化の進展や、情報の意義・役割に関心を持っている。	・近年の社会における情報化の進展や、高度情報通信社会における生活の変化に課題を見付け、思考を深める。また、考えをまとめ、判断することができる。	・コンピュータ等の情報機器や情報通信ネットワーク等、情報手段を円滑に活用できる技術を身に付けている。 ・生活産業の各分野で情報及び情報手段を活用できる。	・高度情報通信社会における情報の意義・役割について理解できる。			
月	単元	時	具体的な学習内容	ねらい	評価の観点※			
					関	思	技	知
4	(1)高度情報通信社会と生活産業	2	○情報化の進展により家庭生活がどのように変化したかを話し合い、発表する。 ○生活や産業の情報化についてまとめる。	・高度情報通信社会における産業や生活の変化を理解させる。	○			○
	ア 高度情報通信社会							
5	イ 生活産業とコンピュータ	3	○生活産業の各分野において利用されているコンピュータシステムについて調べて、発表し合う。	・生活産業におけるコンピュータの役割や利用状況、活用の重要性を認識させる。	○	○		○
	ウ 情報モラルとセキュリティ							
6	(2)コンピュータの仕組みと情報処理	2	○コンピュータの種類、コンピュータの基本動作、利用方法、注意事項などを確認する。	・コンピュータの機能と仕組みを理解させる。	○			○
	ア コンピュータの仕組み							
7	イ ●1 コンピュータによる情報処理	24	○コンピュータを利用する際に必要となるソフトウェアの種類と役割について理解する。 ○日本語ワードプロセッサの操作方法を習得する。 ・文書の作成(通信文書)、 ・表現を工夫した文書作成(消費者被害防止ポスター制作)	・コンピュータによる情報処理の仕組みを理解させる。 ・アプリケーションソフトウェアの基本操作を習得させる。	○	○	○	○
	イ ●1 コンピュータによる情報処理							
8	(3)生活産業におけるコンピュータの活用	14	○表計算ソフトの基本操作を習得する。 ・データ処理(家計管理、環境家計簿)	・コンピュータを活用して、情報の収集、処理、発信を実際にできるようにさせる。	○	○	○	○
			○画像処理ソフトの操作方法を習得する。 ・画像の入力、処理(ファッションマップ作成)					
9	ア ●2 情報の収集、処理、発信	14	○インターネットの概要を理解するとともに、様々な手段を利用して情報を収集、取捨選択し、データベース化する。 ○各種アプリケーションソフトウェアを利用し、適切に情報処理する。 ○プレゼンテーションソフトの概要を理解し、情報を処理し、発表する。	・ホームページの概要を理解させ、情報の発信方法を習得させる。	○	○	○	○
	イ コンピュータシステムの活用							
10	イ コンピュータシステムの活用	15	○ホームページの概要を理解し、ホームページを作成し、情報を発信する。 ・ホームページの作成	・ホームページの概要を理解させ、情報の発信方法を習得させる。	○	○	○	○
			イ コンピュータシステムの活用					
11	イ コンピュータシステムの活用	6	○インターネットで、CAD、CAMのキーワード検索を行い、それぞれの分野ごとに収集した情報を、発表し合う。	・CAD/CAMシステム、シミュレーションシステム、データベースシステム、生産管理システムそれぞれの概要と産業における活用を理解する。	○	○	○	○
			イ コンピュータシステムの活用					
12	イ コンピュータシステムの活用	6	○インターネット上に公開されている無料ソフトを検索し、シミュレーション体験をする。 ○道立図書館などの所蔵図書等のデータベースを検索し、必要な情報を入手する。		○	○	○	○
			イ コンピュータシステムの活用					

※ 評価の観点 関：【関心・意欲・態度】 思：【思考・判断】 技：【技能・表現】 知：【知識・理解】
網掛けした●1～2の指導項目については、具体的な取組例を、後述する。

ア アプリケーションソフトウェアの基本操作の習得と活用を図った指導事例

学習指導においては、家庭に関する各科目の学習内容との関連を図りながら、実習を中心として扱うこととし、生徒の実態等に応じて、日本語ワードプロセッサのほか、プレゼンテーション、画像処理、表計算等の利用に関するアプリケーションソフトウェアを選択し、基本操作ができるようにすることが大切である。

(ア) 消費者被害防止のためのポスター制作を取り入れた授業の展開例

本手引では、思考力、表現力などの育成を図った指導事例【表2】、消費者被害に関するポスターの作業過程の評価例【表3】、及び消費者被害に関するポスターの評価例【表4】を示す。これらの事例は、「家庭基礎」等の必修教科目で既習した消費者被害（振り込め詐欺や悪徳商法など）を防止するためのポスターの制作活動を通して、アプリケーションソフトウェアの基本操作の確実な習得を応用・発展させた指導事例である。

【表2】消費者被害防止のためのポスター制作を取り入れた授業の展開例

教科(科目)	家庭情報処理	単元名	コンピュータによる情報処理	クラス	2年選択
本時の主題	～アプリケーションソフトウェアの基本操作～ 日本語ワードプロセッサ（以下ワープロと表現）や画像処理ソフトウェアの基本操作の習得と活用				
本時の目標	・「家庭基礎」または「家庭総合」等で学んだ消費者教育にかかわるポスター制作を通して、ワープロや画像処理ソフトウェアの基本操作を確実に習得し、活用技術を身に付ける。				
過程	指導内容	学習活動	評価規準・評価方法	指導上の留意点	
導入	・本時の目標の確認	・本時の学習目標を確認する。			
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターのデザイン ・ポスターへ掲載する要素について ・作成する際の条件の確認 ・ワープロや画像ソフトウェアを利用したポスター制作 ・仕上げ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「振り込め詐欺」や「悪徳商法」などへの消費者被害防止のためのポスターを構想する。 ・ポスターの構想上、盛り込むべき要素を発表する。（代表的な手口の例、防止に向けた対応策、防止を促す効果的な画像・キャッチコピー等） ・活用する機能の提示、掲載すべき要素など、条件を確認する。 ・完成後、相互評価を行い、公表し、表彰することを確認する。 ・より効果的かつ意図的になるように、適切に編集機能等を効果的に活用し、ポスター制作を進める。 ・ワープロ機能を活用し、文字以外にも飾り文字ツールやイラストの部品を活用したり、創意工夫する。 ・画像処理ソフトウェアを活用し、画像の修正・加工・合成などを行う。 	<p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アプリケーションソフトウェアの機能を活用し、消費者被害防止のために効果的なポスターとなるよう構想を深めることができる。 <p>（評価方法） ポスター制作における取組状況、ポスター</p> <p>【技能・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスター制作を通して、ワープロや画像処理ソフトウェアの様々な機能を踏まえ、基本操作を習得し、活用技術を身に付けている。 <p>（評価方法） ポスター制作における取組状況、ポスター</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターの構想で悩んでいる生徒には、机間巡視しながら助言したり、隣同士の生徒と相談させるなど配慮する。 ・完成後は作品を掲示し、教師による評価の他に自己評価や、相互評価を実施する。 ・完成後、優れた作品を投票で選び、優勝者を表彰するなど工夫する。 	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめ ・次時の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアール効果を高めるため、様々な編集機能を活用することが有効であることを確認する。 ・次時は表計算ソフトウェアについて学習することを確認をする。 			

(イ) アプリケーションソフトウェアの基本操作の習得と活用における評価例

ポスターの制作の実習を行う場合、下記のようにあらかじめ条件を設定しておくこと、生徒は学習目標を明確に把握することにより学習意欲の向上を図ることができ、教師にとっても評価の観点が明確になる。

また、作業手順に大きな個人差ができないよう、【表3】のような各時ごとの進捗を設定し、作業過程の評価をするとよい。

－ポスターの制作上の条件－

- ① タイトルは、ワードアートや文字アートを作成するソフトを使用して作成する。
- ② タイトルに合った画像（部品を使用する場合は、そのまま使用しない）を入れる。
- ③ 知らせたい内容をわかりやすく、バランスよく配置する。
- ④ 文字飾り、レイアウト枠などの機能を使用し、バランスのとれたレイアウトとなるよう工夫する。

【表 3】消費者被害に関するポスターの作業過程の自己評価例

消費者被害に関するポスター制作			
(作業状況の自己評価)			
作業状況を評価してみましょう。 2年 組 () 氏名			
時間ごとにあてはまるところに○印を付けてください。			
4 十分満足 3 満足 2 やや不十分 1 不十分			
1 時間目 (タイトルの作成、画像の編集)		2 時間目 (文字入力と全体のバランス確認)	
飾り文字の形状がきまった	4 3 2 1	タイトル・画像・文字位置のバランスがよい	4 3 2 1
飾り文字の編集ができた	4 3 2 1	文字が入力できた	4 3 2 1
輪郭が(部品)描けた	4 3 2 1	文字飾りなどによる編集ができた	4 3 2 1
色・柄などが決まった	4 3 2 1	全体のバランスがよい	4 3 2 1
画像がきれいに編集されている	4 3 2 1	創意・工夫ができた	4 3 2 1
飾り文字が完成し画像の保存(文書に添付)ができた	4 3 2 1	合計点	点

【図 1】ポスター作品例



【表 4】消費者被害に関するポスターの評価例

番号	氏名	タイトル		画像		文字		全 体			合 計						
		文字作成ソフトによる	処理ができています	文字の色や形がはっきりしている	タイトルにあった画像で	ある	画像がきれいに編集されている	ワードアートがきれいに	編集されている	文字のバランスと文字		全体のレイアウトがよい	タイトル・画像・文字	位置がよい	余白が適当である	時間内に完成した	意欲的に取り組んでいた
		0.5・10	0.5・10	0.5・10	0.5・10	0.5・10	0.5・10	0.5・10	0.5・10	0.5・10	0.5・10	0.5・10	0.5・10	0.5・10	0.5・10	0.5・10	100
1																	
2																	
3																	



イ 生活産業におけるコンピュータの活用～情報の収集・処理・発信における指導事例
 「家庭情報処理」では、生活産業の情報を情報機器や情報通信ネットワークを利用して、実際に収集、処理、発信できるようにし、生活産業の各分野で情報及び情報手段を活用する能力と態度を育てることを最終のねらいとしている。

(ア) 地域の特徴を生かしたオリジナルレシピの創作と発表における指導計画の例

次の【表 5】は、情報通信ネットワークを利用して北海道の各地域の風土・特色に関する情報を収集し、データベースを活用し目的等に応じて取捨選択し、レシピ集の作成(データベース化)など各種アプリケーションソフトウェアを利用し適切に情報処理した後、オリジナルレシピを開発し、プレゼンテーション(発信)していくという指導計画例である。ここでは、習得した情報処理に関する知識・技術を活用し、収集、処理(データベースの活用や各種アプリケーションソフトウェアの利用による情報の処理など)、発信(プレゼンテーション、印刷物、情報通信ネットワークの利用による情報の発信)の学習活動を通して、思考力・判断力・表現力等の育成を目指している。パソコンによるプレゼンテーションは、表現力(文章のまとめ方、画像の編集テクニックなど)を高めさせるとともに、人前での話し方や質疑応答などによるコミュニケーション能力を身に付けさせることができる。【図 2】として地域の特徴を生かしたオリジナルレシピのプレゼンテーション例を示す。

【表5】「情報の収集、処理、発信」における指導計画案の例

教科(科目)	家庭情報処理	単元名	情報の収集、処理、発信	クラス	2年選択
主 題	・北海道の各地域の風土・特色を生かした料理のレシピ集を作成し、オリジナルレシピを創作し、発表する。				
目標の設定	・インターネットなど様々な情報を収集、取捨選択した後、適切に処理し、レシピ集(データベース)を作成する。さらにそれらを発展させ、各地域のオリジナルレシピを創作し、発表(発信)できる。				
過 程	指導内容・学習活動			評価規準	評価方法
第1時	<ul style="list-style-type: none"> 学習目標の確認 調査対象地域の提示 グループ編成 調査方法、まとめ方、発表方法について 	<ul style="list-style-type: none"> 学習目標を確認する。 北海道の支庁など、いくつかに分けた調査対象地域を確認する。 希望地域ごとにグループをつくる。 グループで話し合い、調査方法(インターネット等)まとめ方、発表方法について、計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【関心・意欲・態度】 希望地域の特色に興味をもち、特色を生かしたレシピ集の作成に向け、意欲的に取り組もうとしている。 【思考・判断】 調査研究の全体をイメージし、適切に計画を立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 取組状況、ワークシート 	
第2時 第3時	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに決定 地域に関する情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のテーマを設定し、特産品を利用した料理を中心に、ほかに何を調査・研究するか考える。 インターネット検索を利用するなどして、地域の風土、歴史、特色、特産品など、情報を収集・取捨選択し、整理する。 選択した情報を適切に処理(ワープロソフト、表計算ソフト)する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【技能・表現】 インターネット等を活用し、情報の収集・取捨選択ができ、適切な情報処理の方法について思考を深めている。 【知識・理解】 各地域の風土や歴史などと料理が密接に関連していることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 作成途中のレシピ集 	
第4時 第5時	<ul style="list-style-type: none"> 各地域の特産品を利用したレシピ集を作成(データベース) 	<ul style="list-style-type: none"> インターネット等を活用し、レシピ集作成に必要な情報の収集・情報の選択・情報の処理について、グループで作業工程を確認し、分担を決めながら実施する。 表計算ソフトのデータベース機能を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【思考・判断】 収集した情報を適切に分析・判断し、選択している。 【技能・表現】 選択した情報を適切に処理できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作成したレシピ集 	
第6時	<ul style="list-style-type: none"> 各地域のオリジナルレシピの創作 	<ul style="list-style-type: none"> 個人で考えたオリジナルレシピをグループ内で交流・評価し合い、改善を図る。 グループとしての試作品を3~5品に絞る。 	<ul style="list-style-type: none"> 【思考・判断】 地域の特産品を生かせるよう、使用する特産品の調理上の性質を最大限に生かせるよう工夫し、創作している。 	<ul style="list-style-type: none"> 創作したレシピのデータ 	
第7時 第8時	<ul style="list-style-type: none"> 調理実習 	<ul style="list-style-type: none"> 試作品3~5品のレシピについて、調理実習を行う。 調理の各過程、できあがりデジタルカメラ等で撮影し、デジタルコンテンツづくりをする。 試食し、味、栄養、手軽さ等、様々な観点から評価し合い判断材料となるデータを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 【思考・判断】 評価項目に従って、適切に判断し、評価している。 【技能・表現】 調理の各過程、できあがりの画像等のデジタルコンテンツづくりを適切に行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習記録ノート、撮影した画像データ、評価データ 	
第9時	<ul style="list-style-type: none"> 各地域のオリジナルレシピの決定 	<ul style="list-style-type: none"> 実習の評価データのほか、オリジナリティ、地域性、経費面などについても考慮しながら、検討し合い、改善点なども挙げ、グループのオリジナルレシピを決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【思考・判断】 評価結果等を分析するとともに、他の様々な条件を考慮し、オリジナルレシピ決定に向け、適切に判断している。 【技能・表現】 最終的なオリジナルレシピの検討に当たり、根拠を基に意見を述べ、話し合いに参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 討論での取組状況 	
第10時 第11時	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーション準備 	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションソフトを活用し、スライドの構成を考え、作成する。 ①各地域の風土、歴史、特性などのスライド ②特産品を生かした代表的なレシピ ③創作したオリジナルレシピ プレゼンテーションソフトの機能を適切に活用する。 説明原稿を作成し、リハーサルをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 【思考・判断】 効果的な発表を目指し、スライド画像や文章を編集・構成し、適切な説明原稿となるよう思考を深め、工夫している。 【技能・表現】 プレゼンテーションの多様な機能と設定方法等を活用し、スライドを構成・作成することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作成途中のプレゼンテーションデータ 	
第12時 第13時	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに発表する。 各発表に対して、質疑応答する。 自分の班の発表後、自己評価を行う。 他の班の発表を見聞きしながら、相互評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 【思考・判断】 お互いの発表を見聞きし、よい点、改善点など挙げ、考えを深めている。 【技能・表現】 プレゼンテーションソフトを適切に活用し、効果的に発表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表の態度、評価表、自己・相互評価表 	
第14時	<ul style="list-style-type: none"> まとめ 次時予告 	<ul style="list-style-type: none"> 感想を発表させる。 次時からは、ウェブページの作成に取り組むことを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【技能・表現】 自己評価表や相互評価表を基に、よい点、改善点について、適切に発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表の態度、評価表 	

(イ) 実習結果における評価例

完成したプレゼンテーションについて、【表6】に教師による評価表の例、【表7】に生徒の相互評価表の例を示す。プレゼンテーションを実施する際は、あらかじめスライド枚数や画像処理、スライドの演出などについて提示するとよい。提示した条件によって評価項目を決めることもできる。評価の観点については、どの条件を重要視するかによって異なるため、基準を決めて配点すると良い。生徒の実態に応

じて【表6】、【表7】にはない評価項目としてあげてもよい。生徒にとっては、相互評価をしながら人の作品を見聞きすることによって、自分の作品と比較しながら、発表の内容、発表態度等だけでなく画像処理やスライド演出のテクニック等についても学習することができる。

【図2】地域の特色を生かしたオリジナルレシピのプレゼンテーション例

【表6】教師による評価表の例

プレゼンテーション評価表
(4:大変良い 3:良い 2:やや良い 1:改善)

発表番号	発表テーマ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	得点合計	感想
		テーマ設定の明確さ	導入の興味・関心	展開の仕方	結論の分かりやすさ	文字・表の見やすさ	声の大きさや強弱	話のスピード	間の取り方	目線(アイ・コンタクト)	動作(ボディランゲージ)		
1													
2													
3													

【表7】相互評価表の例

プレゼンテーション評価表
実施日 月 日
発表者 ()
(4:大変良い 3:良い 2:やや良い 1:改善)

評価の観点		評価			
①	テーマ設定の明確さ	4	3	2	1
②	導入の興味・関心	4	3	2	1
③	展開の仕方	4	3	2	1
④	結論の分かりやすさ	4	3	2	1
⑤	文字・表の見やすさ	4	3	2	1
⑥	声の大きさや強弱	4	3	2	1
⑦	話のスピード	4	3	2	1
⑧	間の取り方	4	3	2	1
⑨	目線(アイ・コンタクト)	4	3	2	1
⑩	動作(ボディランゲージ)	4	3	2	1

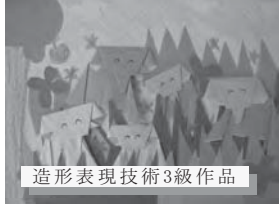
感想・意見

Topic

全国高等学校家庭科保育技術検定について

主催：財団法人 全国高等学校家庭科教育振興会 後援：文部科学省

この検定は、普通教科「家庭」、専門教科「家庭」・「看護」・「福祉」を履修している生徒に対して、家庭科の保育分野における専門的技術の向上を図り、将来、保育及び児童・高齢者等の福祉関連の仕事に従事できる能力と資質や実践的態度を育てあわせて家庭科教育の振興を図ることを目的とし、平成5年にスタートした。



造形表現技術3級作品

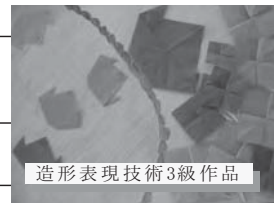
検定は、音楽・リズム表現技術（ピアノ演奏と歌唱）、造形表現技術（折り紙、描画、貼り絵、平面構成等）、言語表現技術（読み聞かせ、紙芝居、素話等）、家庭看護技術（乳幼児の世話）の4種目があり、少子・高齢化が進む社会のなかで、今、最も求められている子育ての意義やコミュニケーション技術を学ぶことができる内容となっており、生涯にわたる人間形成の基礎を培うことができる。

《3級の種目別目標と内容》

種 目	目 標	内 容
音楽リズム表現技術	バイエル No.3 0～No.4 0程度のピアノ演奏と歌唱ができる。	ピアノ演奏と童謡をうたう。
造形表現技術	折り紙で指示された作品をつくり、描画を加えて画面を構成することができる。	指定された折り紙を5個以上折り、色鉛筆、クレヨン、ソフトペンなどで描画を加えて、八つ切り画用紙に画面を構成する。
言語表現技術	紙芝居を用いて、幼児の年齢に応じた演じ方で、興味を引きつける表現をすることができる。	指定された年齢にふさわしい紙芝居を用いて、その年齢の幼児を前にしたつもりで、適切な表現方法を用いる。
家庭看護技術	乳幼児の発達段階や高齢者等の状態に応じた日常生活の世話ができる。	乳幼児や高齢者等の衣類着脱ができる。（けがをした場合も含む）

《3級の種目別評価の観点》

種 目	評 価 の 観 点
音楽リズム表現技術	ピ ア ノ <ul style="list-style-type: none"> ・指先、手の形など打鍵がよい。 ・五指が独立して動いている。 ・速さが安定維持していて、テンポがよい。
	歌 唱 <ul style="list-style-type: none"> ・発声に無理がなく、正しい音程とリズムで相手にうたいかけている。 ・歌詞を正しく解釈し、表情が豊かである。
造形表現技術	技 術 <ul style="list-style-type: none"> ・描画がいきいきと描かれている。 ・規定にあった折り紙が丁寧にできている。
	表 現 <ul style="list-style-type: none"> ・問題の内容を理解した表現である。 ・のびのびと表現されている。 ・幼児が理解しやすい表現である。
	創 造 <ul style="list-style-type: none"> ・想像した場面が上手に描かれている。 ・場面の構成に独創性が見られる。
	全 体 時 間 <ul style="list-style-type: none"> ・折り紙と描画のバランスがとれている。 ・時間内（40分）に完成されている。
言語表現技術	話 し 方 <ul style="list-style-type: none"> ・感情をこめて表情豊かに表現している。 ・明瞭な発音で、お話の内容にふさわしい速さで演じている。 ・言葉の表現や間の取り方が優れている。 ・幼児への視線が適切で、発達段階にふさわしいリズムで演じている。
	扱 い 方 <ul style="list-style-type: none"> ・話の内容を自分のものとし、抜き方にも工夫している。
家庭看護技術	用具の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・必要な用具の確認ができる。
	世話の仕方 <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の発達段階および高齢者の状態に応じた世話が適切にできる。 ・乳幼児、高齢者に苦痛を与えないようにできる。 ・用具や病人の安全確保ができる。
	実施中の態度 <ul style="list-style-type: none"> ・手際がよい。 ・声かけ等実施中の態度がよい。



造形表現技術3級作品

申し込み方法・お問い合わせ先

全国高等学校家庭科技術検定委員会
〒102-0071 東京都千代田区富士見1-5-6
TEL 03-3261-0617(代) ・ FAX 03-3288-1670
E-mail:all-kocho@katei-ed.or.jp

詳しい情報についてのウェブページ

全国高等学校家庭科教育振興会

<http://www.katei-ed.or.jp/index2.html>